

令和8年（2026年）9月10日
公益財団法人 長野県産業振興機構
マーケティング支援部
TEL：026（227）5013
FAX：026（228）2867
E-mail：matching@nice-o.or.jp

登録受注企業経営動向調査結果

令和8年（2026年）7月分

公益財団法人長野県産業振興機構

＜ 目 次 ＞

	ページ
I 調査の概要	1
II 調査結果の要約	2
III 経営動向調査集計結果	
1・受注量	5
2・3 か月後の受注見通し	5
3・受注単価	5
4・操業度	6
5・収益性	6
6・取引条件	7
7・経営上の問題点	8
8・今後の対応策	8
9・回答企業の構成	9
【資 料】	
登録受注企業経営動向調査票	10

I 調査の概要

1 目 的

長野県内の中小企業の経営動向を把握し、事業を推進する上での資料とするとともに、全体の動向について情報提供を行う。

2 対 象

当機構登録受注企業より、任意に抽出した200企業を継続的に対象としている。

3 時 期

令和8年7月末現在の状況について、8月に調査を行っている。

4 方 法

往復ハガキを使用したアンケートにより調査を行っている。

5 内 容

調査内容については、【資料】登録受注企業経営動向調査票（10ページ）のとおりである。
なお、現在の受注量及び収益性については、3か月前と比べた状況（増加・減少）（向上・悪化）を質問している。

調査結果については、DI方式を用いて、項目毎に動向を判断している。

*DI（*Diffusion Index*）：「増加」、「上昇」、「向上」とする企業の割合から、
「減少」、「低下」、「悪化」とする企業の割合を引いた値

6 回収の状況

対象企業数	200 社
回答企業数	180 社
回答率	90.0%

7 回答した企業の構成

Ⅲの9（9ページ）のとおりである。

8 調査の公表

本調査の結果は、当機構HPに過去4回分と併せて掲載後、長野県発表資料（プレスリリース）に掲載される。各項目の構成比は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

<https://www.nice-o.or.jp/info/info-76625/>



登録受注企業経営動向調査について

当機構では、工業系製造業の事業者のうち、当機構による受発注のあっ旋・紹介を受けたいと申出をされた事業者の登録を行い、受発注のあっ旋・紹介、企業情報の提供、苦情・紛争の相談、その他展示会等に関する情報の提供などを行っている。

令和8年4月末現在、登録発注企業約1,300社、登録受注企業約1,200社となっている。

本調査は、上記1の目的で登録受注企業を対象とし、昭和54年以降四半期ごとに実施をしている。

Ⅱ 調査結果の要約 令和8年（2026年）7月分

【概 況】

■ 受注量DⅠは前回調査（4月分）に比べて大幅に上昇しており、3か月後の受注量見通しも上昇している。

- ① 受注量DⅠは29.9となり、前回調査から11.4ポイント上昇している。
内訳は、「増加した」とする企業の割合が前回調査より9.6ポイント上昇し、「減少した」とする企業の割合が前回調査より1.8ポイント低下している。
- ② 3か月後の受注量の見通しDⅠは、13.5となり、前回調査より、14.0ポイント上昇している。
- ③ 材料費込みの受注単価DⅠは45.6となり、前回調査より3.6ポイント上昇し、加工賃のみの受注単価DⅠは23.5となり、前回調査より5.4ポイント上昇している。
- ④ 操業度は、「100%～80%超」とする企業の割合が最も高く43.6%である。前回調査と比べると、「100%超」とする企業が9.9ポイント上昇する一方、「100%～80%超」とする企業の割合が5.6ポイント低下している。また、今回「65%～50%超」「50%以下」とする企業が5.2ポイント低下している。
- ⑤ 収益性のDⅠは14.5となり、前回調査より21.6ポイント上昇している。
- ⑥ 委託事業者の取引代金の支払方法は、「全額現金」とする企業の割合が65.2%と最も高く、次いで「現金と手形の併用」「全額手形」の順となっている。また、手形のサイトは、「90日以内」「91日～120日」とする企業の割合が46.3%と最も高くなっている。
- ⑦ 経営上の問題点では、「求人難」とする企業の割合が、33.0%と最も高い。次いで「経費の上昇（材料の高騰含む）」が21.8%、「受注量の減少」が20.7%の順となっている。
- ⑧ 今後の対応策では、「人材の確保・養成」とする企業の割合が42.7%で最も高く、次いで「取引先の拡大」が18.0%となっている。
- ⑨ 回答企業の構成は一般機械加工が36.1%、次いで自動盤加工が13.3%となっている。従業員規模別の構成は50人以下が26.0%、次いで10人以下が21.5%、100人以下が18.6%となっている。
受注量に変化があった製品について、増加と回答した企業は74社となり、その内半導体関連が55.4%と過半を占めた。減少と回答した企業は19社となり、その内自動車部品が31.6%となった。



1 受注量：D Iは29.9

受注量DIは29.9となり、前回調査より11.4ポイント上昇している。

	今 回（4月）	前 回（4月）
増 加	41.8%	32.2%
横ばい	46.3%	53.6%
減 少	11.9%	13.7%
D I	29.9	18.5

3か月後の受注量見通しDIは13.5となり、前回の予測より14.0ポイント上昇している。

	今回予測 （10月見通し）	前回予測（7月見通し）
増 加	22.5%	20.0%
横ばい	68.5%	59.5%
減 少	9.0%	20.5%
D I	13.5	▲0.5

2 受注単価：DIは45.6（材料費込み）、23.5（加工費のみ）

（1）材料費込みの受注単価

受注単価DI（材料費込み）は、45.6となり、前回調査との比較では、3.6ポイント上昇している。

	今 回（7月）	前 回（4月）
値上りした	46.2%	42.6%
変わらない	53.3%	56.2%
引下げられた	0.6%	0.6%
D I	45.6	42.0

（2）加工費のみの受注単価

受注単価DI（加工費のみ）は23.5となり、前回調査との比較では、5.4ポイント上昇している。

	今 回（7月）	前 回（4月）
値上りした	24.7%	20.5%
変わらない	77.1%	77.1%
引下げられた	1.2%	2.4%
D I	23.5	18.1

3 操業度

操業度は、「100%～80%超」とする企業の割合が最も高く43.6%である。前回調査と比べると、「100%超」とする企業が9.9ポイント上昇している。また、「65%～50%超」とする企業が3.1ポイント、「50%以下」とする企業が2.1ポイント低下している。

	今 回（7月）	前 回（4月）
100%超	21.8%	11.9%
100%～80%超	43.6%	49.2%
80%～65%超	27.4%	25.9%
65%～50%超	6.1%	9.2%
50%以下	1.1%	3.2%

4 収益性：DIは14.5

収益性DIは14.5となり、前回調査との比較では21.6ポイント上昇している。

	今 回（7月）	前 回（4月）
向上した	28.9%	20.1%
変わらない	56.7%	52.7%
悪化した	14.4%	27.2%
DI	14.5	▲7.1

5 取引条件

委託事業者の取引代金の支払方法は、「全額現金」とする企業の割合が65.2%と最も高く、次いで「現金と手形の併用」「全額手形」の順となっている。また、手形のサイトは、「90日以内」「91日～120日」とする企業の割合が46.3%と最も高くなっている。

	今 回（7月）	前 回（4月）
全額現金	65.2%	62.7%
現金と手形の併用	33.1%	35.1%
全額手形	1.7%	2.2%
90日以内	46.3%	49.3%
91日～120日	46.3%	41.1%
121日～150日	7.5%	8.2%
151日以上	0.0%	1.4%

6 経営上の問題点

「求人難」とする企業の割合が33.0%と最も高く、前回調査との比較では14.6ポイント上昇している。次いで「経費の上昇（材料の高騰含む）」、「受注量の減少」となっている。

	今 回（7月）	前 回（4月）
受注量の減少	20.7%	34.6%
単価の引下げ	0.6%	1.1%
コストダウン・高品質化	1.1%	2.7%
経費の上昇（材料の高騰含む）	21.8%	23.8%
求人難	33.0%	18.4%
人件費の上昇	10.6%	8.1%

7 今後の対応策

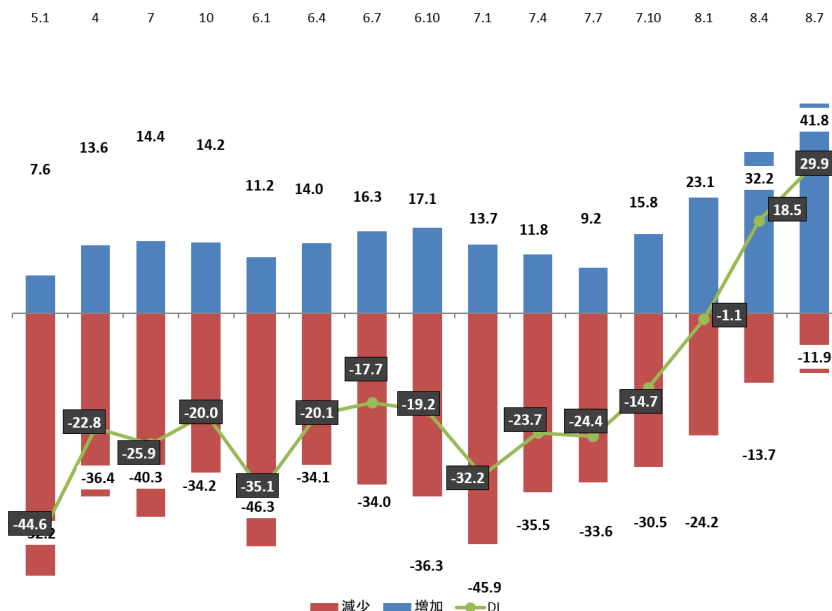
「人材の確保・養成」とする企業の割合が42.7%と最も高い。次いで「取引先の拡大」「財務体質の強化」となっている。

	今 回（7月）	前 回（4月）
取引先の拡大	18.0%	28.3%
人材の確保・養成	42.7%	40.8%
多品種少量生産への対応	2.2%	1.1%
自社製品への取組強化	4.5%	2.7%
品質向上等による高付加価値化	5.1%	6.5%

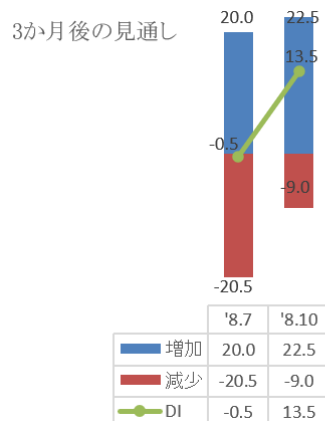
Ⅲ 経営動向調査集計結果（令和８年度・第２回分）

（注）棒グラフのプラス側は好転（増加、上昇）の企業の割合、マイナス側は悪化（減少、低下）の企業の割合である。
折れ線グラフ（DI）は好転（増加、上昇）の企業の割合から悪化（減少、低下）の企業の割合を引いたものである。
構成比については、項目毎に小数第２位を四捨五入しているため、合計が１００％にならない場合がある。

１ 受注量

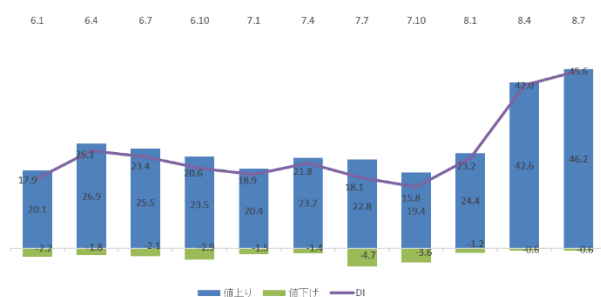


２ ３か月後の受注見通し

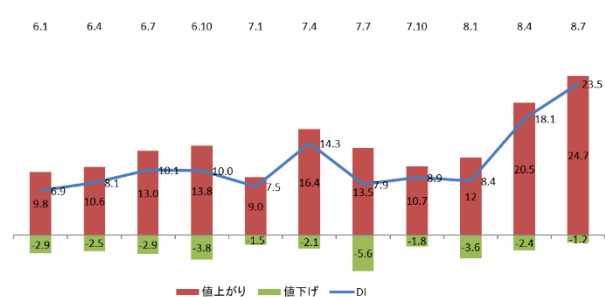


３ 受注単価

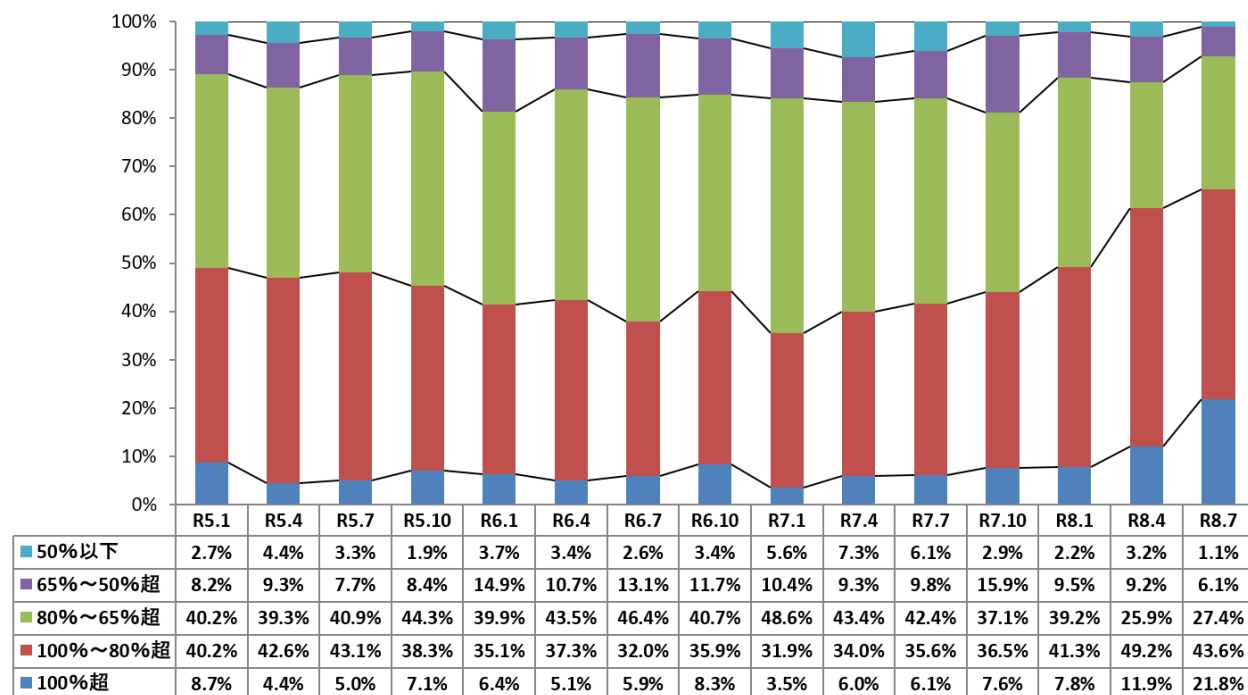
（１）材料費込みの受注単価



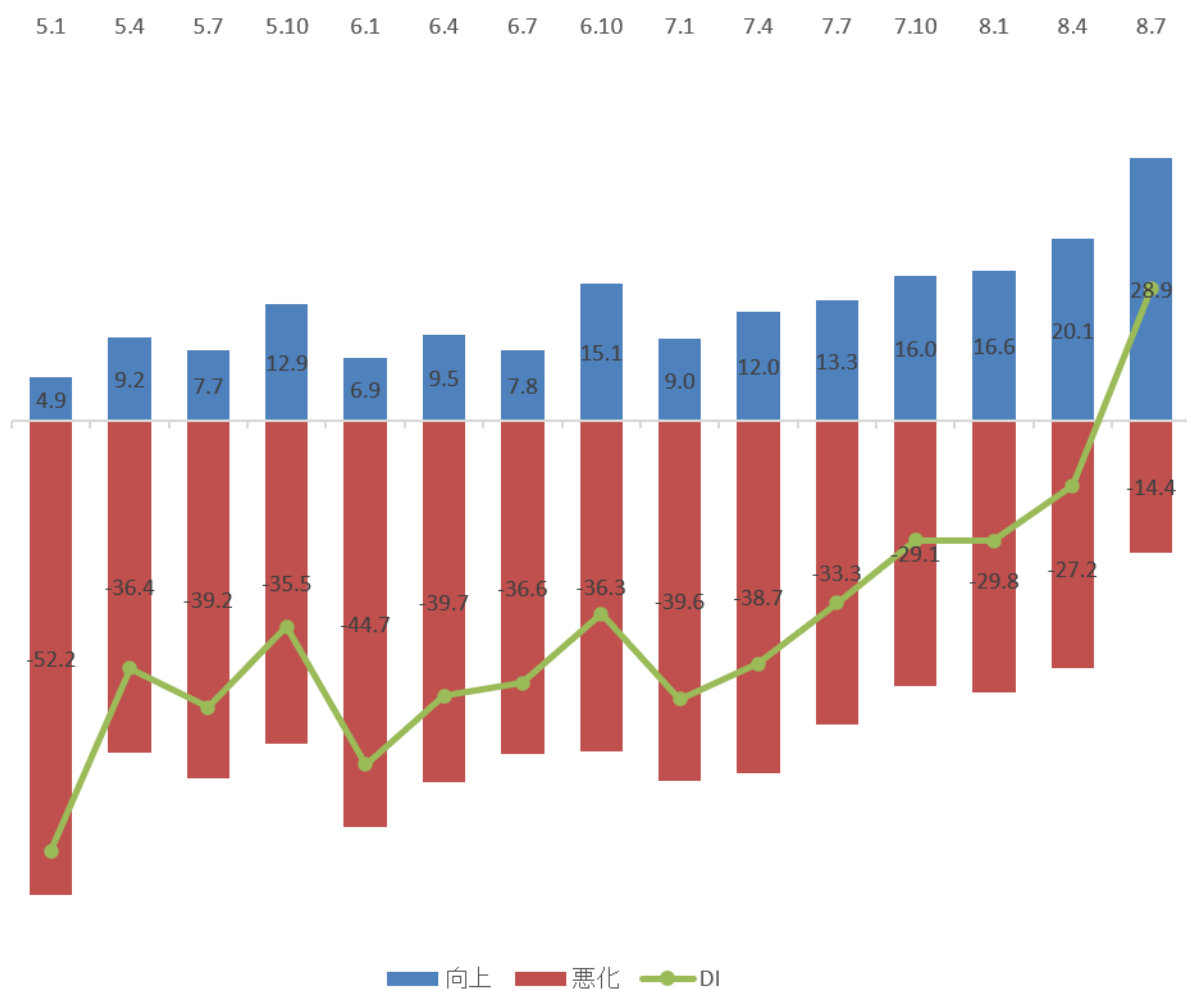
（２）加工費のみの受注単価



4 操業度

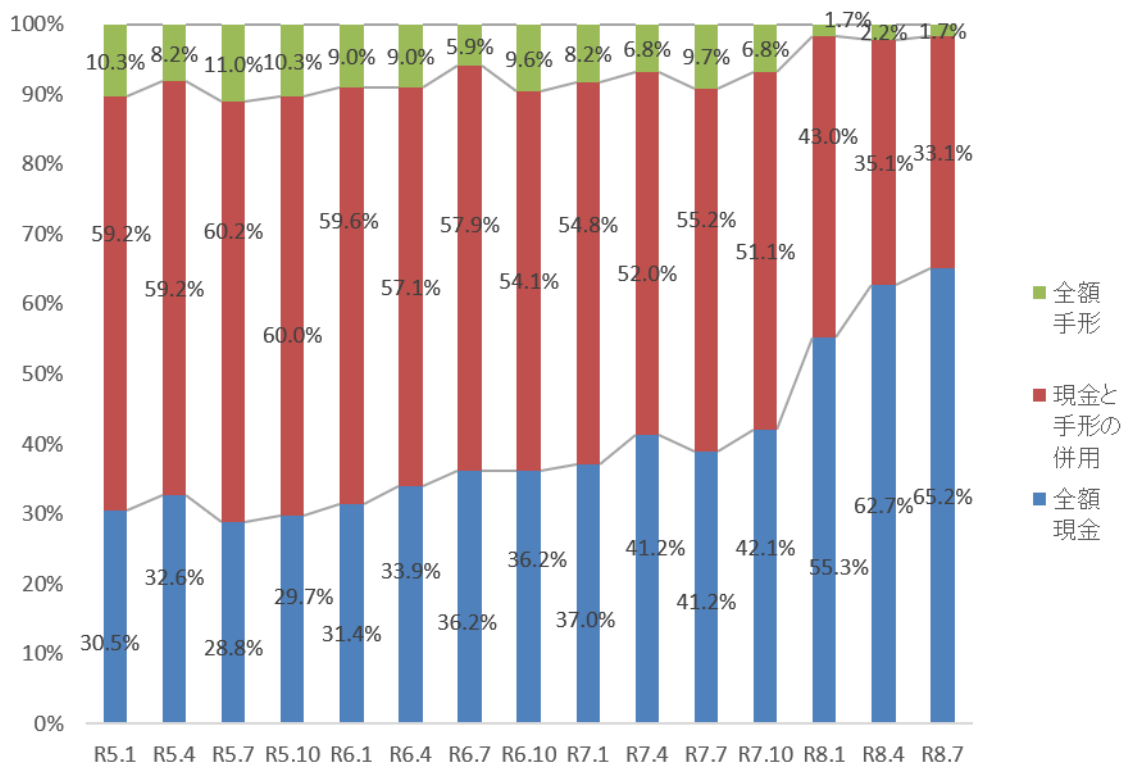


5 収益性

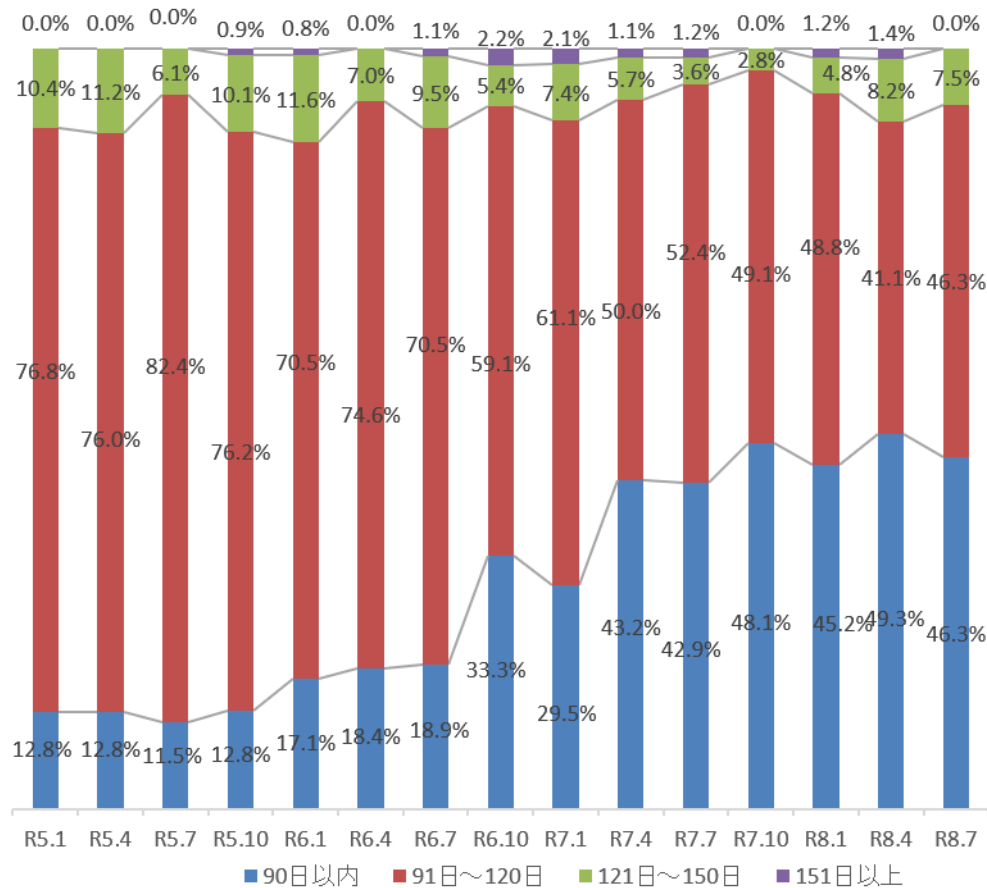


6 取引条件

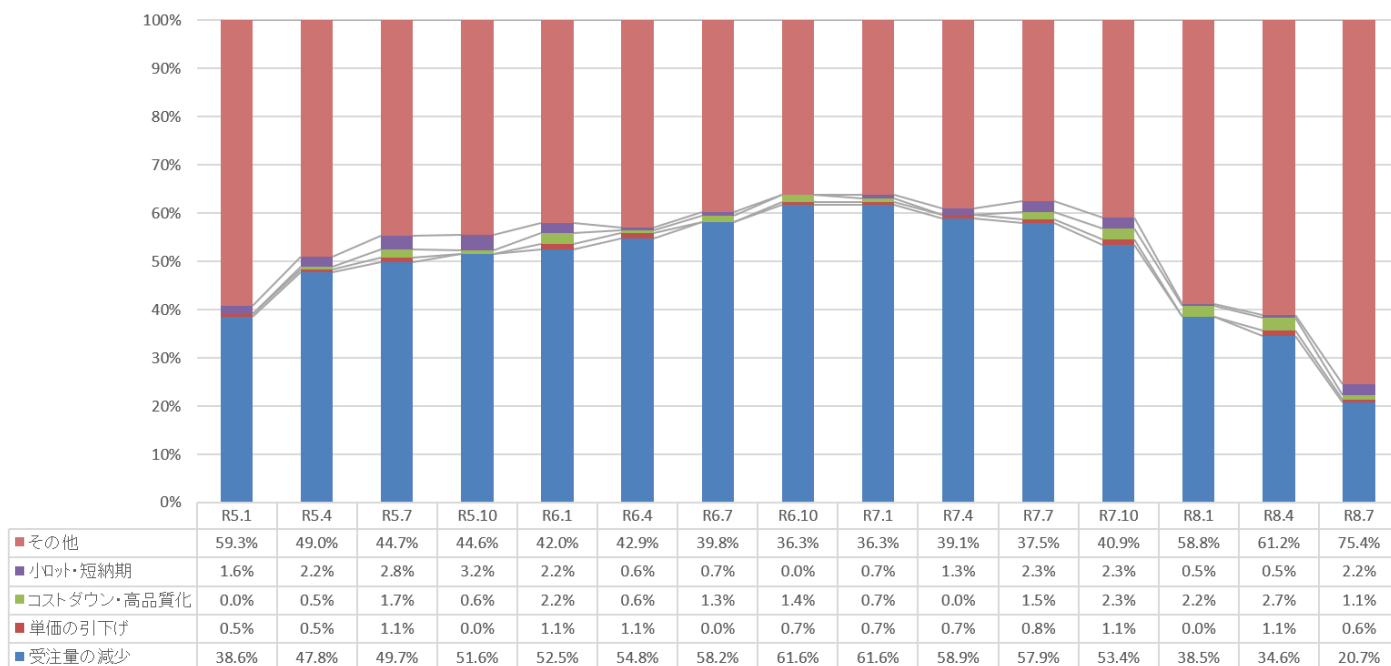
(1) 委託事業者の取引代金の支払方法



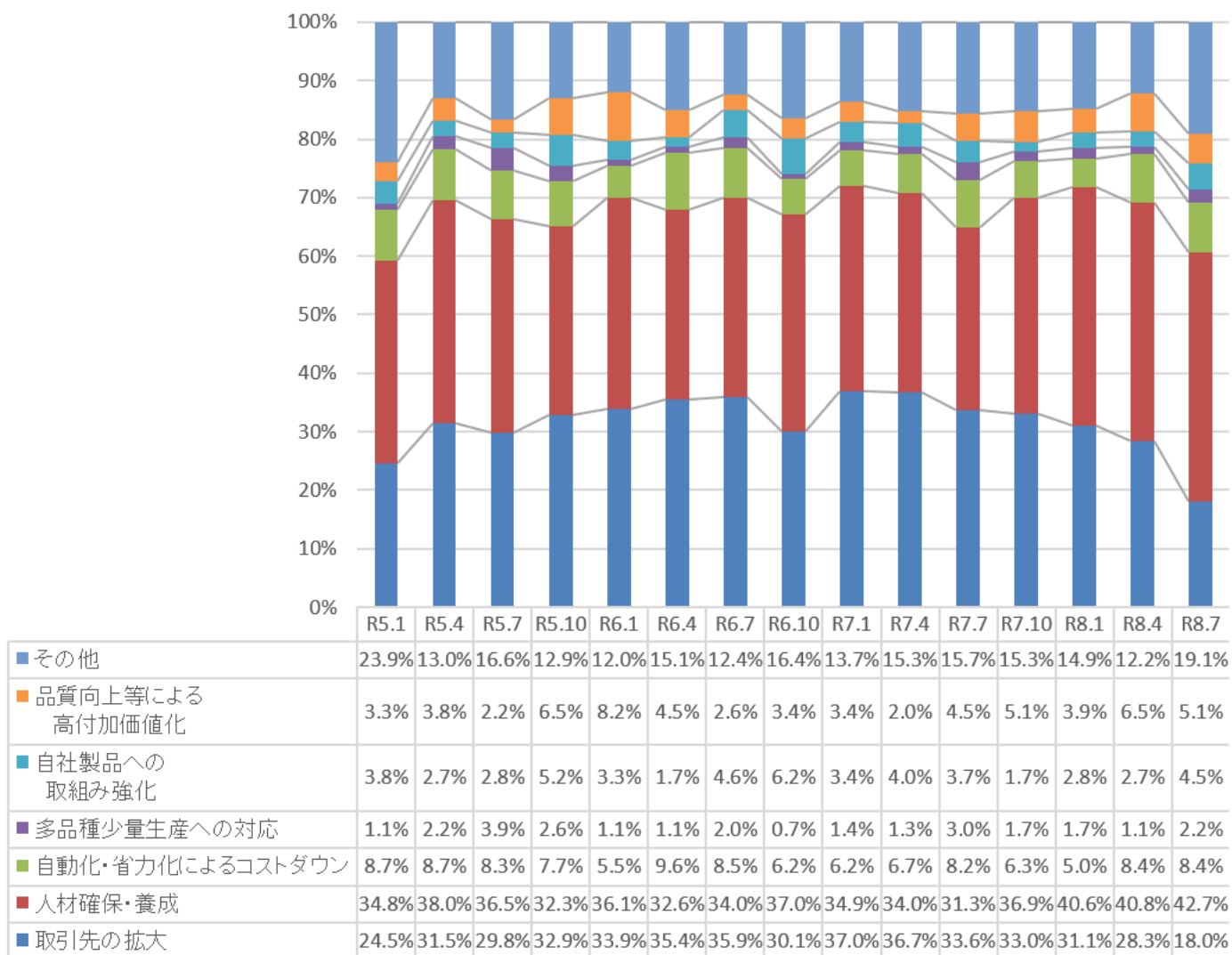
(2) 手形サイト



7 経営上の問題点

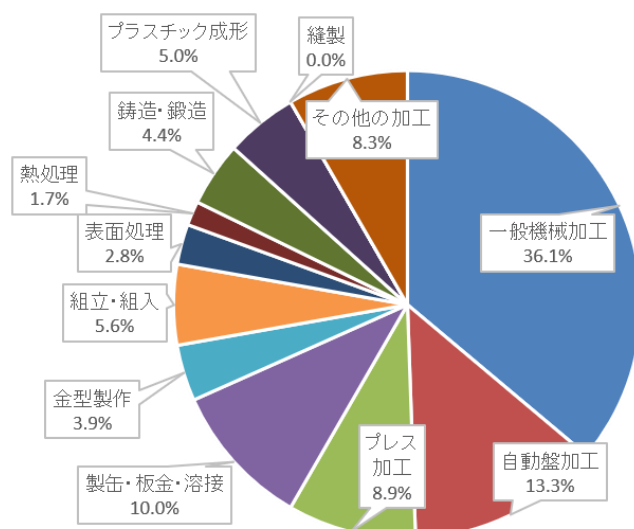


8 今後の対応策



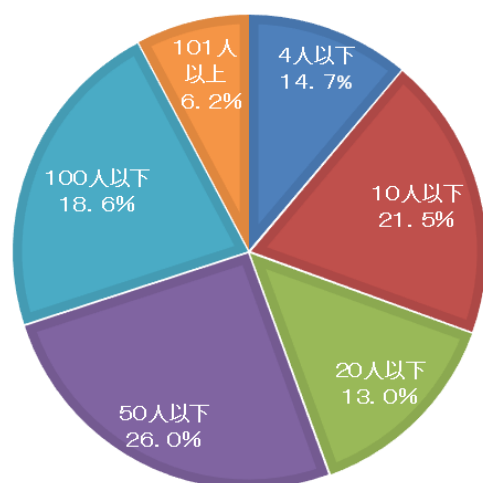
9 回答企業の構成

(1) 加工別の構成

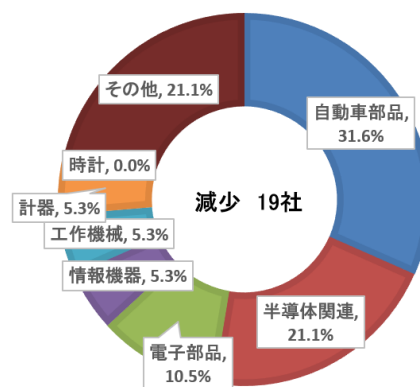
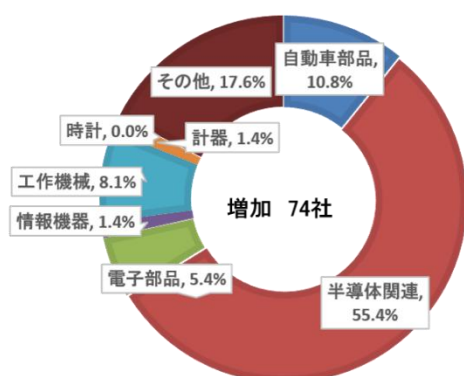


(2) 従業員規模別の構成

■ 4人以下 ■ 10人以下 ■ 20人以下 ■ 50人以下 ■ 100人以下 ■ 101人以上



(3) 受注量に変化があった製品



登録受注企業経営動向調査票 令和8年度・第2回

(令和8年7月末現在)

◎記入上の御注意

下記の設問について、各々1つだけ○印を付けて下さい。

※印の設問については「受注依存度の最も高い取引先企業を対象」として御記入下さい。

問1	現在の受注量は3ヶ月前に比べ		a.増 加	b.横ばい	c.減 少
	受注量の変化のあった(上の設問で「a.増加」か「c.減少」を選んだ)関連業種は何ですか。 1つだけ○印をつけてください		a.自動車部品 d.情報機器 g.時計	b.半導体関連 e.工作機械 h.その他()	c.電子部品 f.計器
問2	今後の受注量の見通しは(3ヶ月後)		a.増 加	b.横ばい	c.減 少
※問3	受 注 単 価は、3 ヶ 月 前 に 比 べ	1 材料費込の場合	a.値上りした	b.変わらない	c.引下げられた
		2. 加工費のみの場合	a.値上りした	b.変わらない	c.引下げられた
問4	現在の操業度は生産能力に比べ		a.100%超 d.65~50%超	b.100~80%超 e.50%以下()	c.80~65%超
問5	収益性は3ヶ月前に比べ		a.向 上	b.変わらない	c.悪 化
※問6	委託事業者の取引代金の支払方法		a.全額現金	b.現金と手形の併用	c.全額手形
※問7	前問でb、cと回答した場合その手形サイトは		a.90日以内 d.151~180日	b.91~120日 e.180日以上	c.121~150日
問8	企業経営上、現在最も問題となっていることは何ですか。 1つだけ○印をつけて下さい。		a.受注量の減少 b.単価の引き下げ c.求人難 d.長時間労働 e.小ロット・短納期 f.コストダウン・高品質化 g.人件費の上昇 h.経費の上昇(材料の高騰含む) i.経営者の高齢又は後継者難 j.機械設備の陳腐化 k.資金繰り l.その他()		
問9	今後の経営の方向について貴社としてどのような対応が必要とお考えですか。 重要とおもわれるもの1つだけ○印をつけて下さい。		a.人材確保・養成 b.取引先の拡大 c.労働時間の短縮 d.自動化・省力化によるコストダウン e.福利厚生制度・施設の充実 f.多品種少量生産への対応 g.品質向上等による高付価値化 h.工程管理・納期管理の徹底 i.財務体質の強化 j.自社製品への取組み強化 k.経費節減 l.その他()		

ご協力ありがとうございました。

貴社の従業員数	イ.1~4人	ロ.5~10人	ハ.11~20人
	ニ.21~50人	ホ.51~100人	ヘ.101人以上
最もウェイトの高い加工	a.一般機械加工	b.自動盤加工	c.プレス加工
	d.製缶・板金・溶接	e.金型製作	f.組立・組入
	g.表面処理	h.熱処理	i.鑄造・鍛造
	j.プラスチック成形	k.縫製	l.その他の加工